

## 2023 年度 個人研究実績・成果報告書

2024 年 2 月 28 日

|            |                               |              |                     |      |      |
|------------|-------------------------------|--------------|---------------------|------|------|
| 所属         | 商経学部                          | 職名           | 教授                  | 氏 名  | 小黑岳志 |
| 研究課題       | 統語論における談話参加者の存在 ―話し手と聞き手の関わり― |              |                     |      |      |
| 研究キーワード    | 統語論, 談話参加者, 聞き手, 話し手          | 当年度計画に対する達成度 | 4.当初の計画どおり研究が進まなかった |      |      |
| 関連するSDGs項目 | 該当なし                          | 該当なし         | 該当なし                | 該当なし |      |

## 1. 研究成果の概要

本研究では、話し手や聞き手といった談話参加者を統語論的実在として扱い統語論に表示させるという Speas & Tenny (2003)などの考えを推し進めるという立場から、話し手と聞き手との関わりがはっきりと統語的に示されている構文を考察しようとした。

その際に、日本語の「～よう」「～ろう」などの意志や推量を表す表現の振る舞いを、Landau (2000)に代表される **partial control** に関わる研究と関連付ける方向性を探っていたが、すでに同様の扱いをする研究があることがわかり、さらに研究を進めなければならないということが明らかになった。より深い検討をするためにはまだ時間が必要であるといえる。

## 2. 著書・論文・学会発表等

(できるだけご記入ください。査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載)

【論文 (査読あり)】

【著書・論文 (査読なし)】

Remarks on Addressed Non-Hearers. *Proceedings of the 24 the Seoul International Conference on Generative Grammar 2022: Linearization*. 257-264. Edited by Tae Sik Kim & Jungu Kang

【学会発表等】

## 3. 主な経費

研究活動のために PC を購入した。

## 4. その他の特筆すべき事項 (表彰、研究資金の受入状況等)

特にありません。

(本文は 2 ページ以内 にまとめること)